

ももせやすらぎの里 平成 24 年度 第 4 回運営推進会議報告書

テーマ 認知症介護に携わる者としての視点の在り方

開催日時：平成 24 年 12 月 5 日（水）14:00～

開催場所：塩竈市伊保石 30-1

グループホームももせやすらぎの里

1,参加者

- ・塩竈市健康福祉部長寿社会課長寿支援係 1名
- ・塩竈市北部地域包括支援センター 1名
- ・塩竈市千賀の台町内会 6名
- ・塩竈市伊保石・清水沢一区町内会 1名
- ・入居者 4名
- ・入居者家族 3名
- ・社会福祉法人大和福壽会 統括渉外相談室課長 森 繁樹
- ・ももせやすらぎの里職員
管理者 鈴木弥生、介護支援専門員 木村洋子
佐々木剣一郎、佐藤佳澄、土井里香、内海秋穂、安部麻美、佐々木純子

2,開会の挨拶

3,本年度入社職員紹介

4,事例検討

- ・訴えの多いハルさん
- ・ナツさんの物盗られ妄想

5,認知症介護への思い（職員）

- ・良い方向へ向かうよう考えながらケアを行っている。
- ・混乱している利用者には自分がまず落ち着いて対応するように心がけている。
- ・直ぐ解決しようと目先だけで捉えてしまっていることを反省。
- ・地域密着型サービスの利点を活かさなければならぬと改めて感じた。

6,参加者より

- ・様々なサービスがでてきているが、働く者の知識がなければ対応できない。経験を積み重ね学習していくことが大事。
- ・認知症に悩んだ家族が相談に来るケースが多い。現在の状態などの話に耳を傾け聞く。認知症は受け入れるしかないと思う。やすらぎの里で認知症サポーター養成講座をやってみてはどうだろうか。
- ・若い世代が介護の仕事をするのは素晴らしいことだ。自分の親だと思って接するといいだろう。
- ・仕事を楽しいと感じるまで10年かかった。頑張ってもらいたい。
- ・認知症でもわからないようにしてちゃんと見てるしわかっていると思う。
- ・サポーター養成講座はどのようなものか興味がある。
- ・利用者の一人一人の性格が違うから大変だと思う。
- ・職員の皆さんには感謝・感謝。

7,閉会の挨拶

*次回は1月28日(月)を予定しております。
参加者の皆様ありがとうございました。